

協賛企業賞

森林と動物

港陽小学校 小林 広実

わたしは、小さなころから動物が好きでよく家族で動物園や牧場に行きたくさんの動物にふれ合いました。牛のちちしぼりをしたり、うさぎや馬にえさをあげたり、犬やモルモットをだっこしたりしました。

そんなかわいい動物たちが、森林がへってきているために、ぜつめつのききにおちいつていることを知っておどろきました。

例えば、ワウワウテナガザルは昔は広い地いきに分布していたが、森林がばっさいされていき、住みかが少なくなり、ぜつめつのききにおいこまれたそうです。ワウワウテナガザルは、サル科の中でも一番ぜつめつしてしまう可能性が高く、現ざいは三百から二千匹しか残っていないとされているそうです。それから、アオキコンゴウインコは数が少なく、き重な鳥です。ポリビアの一部にしか生きていないので、森林を焼きはらったり木を切ったりしたら、ぜつめつしてしまうことがあるそうです。

人間が森林をばっさいしているためにふつうにくらせていた動物がぜつめつのききにおかされています。森林や動

物を守るために何ができるか考えてみました。

まず、森林について知ることが大切だと思いました。動物の住みやすい森林を守り続けるには、人間一人一人が森林の大切さを知って、森へ出かけてみてほしいと思いました。動物と同じように人間も森林に行くと、とても気持ちがいいということを感じることができると思っています。そこには、いろいろな動物が生活していて、その動物たちを見ることで、身近に感じられ、大切にしたいという気持ちが出てくると思っています。

以前、植林に参加したことがあります。その時は小さかったのですが遊びに行ったような気持ちで意味がよく分かっています。今思うと、とても大切なことに参加できていて、とてもうれしく感じました。そのような、楽しく植林できるイベントがもっとふえたらいいと思います。

子どもころから、森や林に親しむことで、必要のない森林ばっさいをする気持ちがいなくなり、動物たちをぜつめつのききから守れたらいいと思います。